

若年層にメッセージを届けるために －高校生による高校生のための薬物乱用防止啓発資材づくり－

東部健康福祉センター ○大村奈央、服部晃大、神山晋太郎
黒見公一、久川祐稔

【背景及び目的】

近年、大麻事犯の検挙者数が急増しており、令和5年度には県内で過去最多となった。この検挙者数の約7割は青少年（30歳未満）によるものである。また、若年層の間では、辛い気持ちから逃れる手段等として市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）が身近な問題となっている。これらのことから、特に若年層に対して薬物乱用防止についての啓発が急務である。

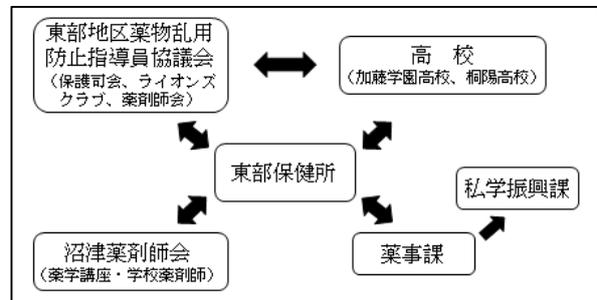
県では、保護司会やライオンズクラブ、薬剤師会の会員等を薬物乱用防止指導員として委嘱し、地区ごとに協議会を設置して薬物乱用防止にかかる啓発活動等を推進している。東部地区の各団体と意見交換を行ったところ、「若年層に対する啓発資材として、現在使用しているクリアファイルや下敷き、ポケットティッシュ、リーフレットなどが本当に効果的なのか」との課題が提起された。実際、街頭啓発をしていますが、これら啓発資材を受け取ってもらえないと実感することも多い。

については、若年層にとって受け取りやすく、情報にアクセスしやすい啓発資材を、啓発対象である若年層（高校生）と一緒に検討・作成した。

【取組内容】

○体制構築

啓発資材の作成に当たっては、当所と協議会、高校との3者による連携に加え、薬学講座や学校薬剤師の関係で、沼津薬剤師会との連携も図った。なお、本取組の財源は、ライオンズクラブから協議会に対する寄附により賄っている。



本取組の体制

○啓発対象（高校生）を知るための取組

本取組に関する説明をする前に、参加する高校生にアンケートを実施し、高校生が持つ薬物のイメージや知識等について確認を行った。

また、啓発資材の検討を行う前に意見交換を行い、高校生について知る機会とした。



高校生と打合せをしている様子

○啓発資材の作成

高校生には資材、デザイン、実現可能性の3段階に分けて検討してもらった。各段階の検討がまとまるごとに打合せを行い、高校生の考えを十分に聞き取った上で進めた。

【結果及び考察】

今回の取組は、単に高校生に啓発資料の検討をしてもらうだけでなく、啓発対象（若年層）について知る機会や協力を得た高校に対する啓発の場、関係団体との連携を深める機会など、様々なメリットがあった。

最初に高校生にアンケートを実施し、意見交換を実施したところ、表1のような回答だった。薬物という言葉や薬物が何かは知っているものの、「薬物」や「薬物乱用防止」に関して検索を行ったり、HPを閲覧したりしたことが無い生徒の方が多かった。また、街頭啓発を見かけたことの無い生徒も半数おり、1/3の生徒は「薬物乱用」はテレビの中の話との回答であった。

おそらく、薬学講座等によって薬物について知る機会はあるものの、自ら情報にアクセスすることまでには至っていない状況であり、若年層と正しい情報とをつなぐ啓発資料が必要であることが考えられた。

一方で、高校生と意見交換を行うと、以下のような意見が出てきた。

(高校生との意見交換で出てきた意見)

- ・ポケットティッシュは、たまたま必要な時は貰うが、そうでない時は貰わない。
- ・必ずしもキャラクターが載ってなくても、スタイリッシュなロゴやかわいい文字だけでも良いかもしれない。(手元に置きやすいかもしれない。)
- ・街頭啓発をしても、まずは勧誘やアンケートを疑うので、あまり近づかない。
- ・高校生と一緒に配っていれば、怪しまないかもしれない。

街頭啓発をしても、原則、あまり近づかないという意見を考えると、半数の生徒が薬物乱用防止に関する街頭啓発やイベントを見かけたことが無いというのは、街頭啓発は見かけていたとしても、それを「薬物乱用防止」と認識せずに通り過ぎたり、その場を離れたりしてしまっている可能性が考えられた。その原因は、街頭啓発が勧誘やアンケートと疑われている状況であることから、啓発活動を行う際は、対象となる若年層と一緒に取り組むことが効果的と考えられた。

また、「薬物乱用防止」だから敬遠されるのではなく、デザインを工夫することで、啓発資料を高校生が手元に置いてくれる可能性があることがわかった。

については、啓発資料の検討においては、高校生の意見をよく聞き、できる限り尊重した。資料、デザイン、実現可能性について、順次検討していくこととしていたが、資料とデザインとの組み合わせによることもあることから、複数案の検討も可とした上で、最終的に実現可能性の検討で施行案を決定した。なお、最終決定に当たっては、協議会の理解も得て決定した。

【今後の取組】

今後は、作成した啓発資料を使って高校生と一緒に街頭啓発を行うことを予定している。また、作成した啓発資料を様々な場面で使ってもらえるように保護司会、ライオンズクラブ、薬剤師会に働きかける予定である。

今回参加してもらった高校生には、自校の薬学講座で本取組みを紹介してもらうなど、校内で共有してもらうことにより、啓発効果を構内に広げたいと考えている。

なお、次の取組として、大学生を対象に同取組を実施したり、若年層に薬物乱用防止のためのHP作成等を依頼したりするなどして、若年層が薬物乱用防止に関する取組に接する機会を増やすことにより、世代全体に対して身近な問題として認識してもらえる機会を増やし、気運を高めていきたいと考えている。

表1 啓発資材の作成に当たってのアンケート結果（回答者数：生徒11名）

質問	回答
Q1 「薬物」という言葉を聞いたことがありますか。	ある：11名、ない：0名
Q2 「薬物」という言葉に対する印象をお聞かせください。	危険なもの、危ないもの、日本では違法なもの、よくないイメージ、薬物やったら捕まる、医療とかでも聞く(?)、気をつけないといけない、絶対にふれてはいけないもの、体に悪い、使うと楽しくなる、ヤクザ、海外での使用が多い、依存したらなかなか抜け出せない、幻覚、幻視
Q3 知っている「薬物」を全て記載してください。	大麻、覚せい剤、シンナー、LSD、コカイン、マリファナ、MDMA ※全員2種類以上回答
Q4 薬物乱用防止に関する街頭啓発やイベントを見かけたことはありますか。	①ある：6名、②ない：5名
Q5 薬物乱用防止に関する啓発資材をもらったことがありますか。	①ある：10名、②ない：1名
Q6 「薬物」又は「薬物乱用防止」について、検索したことはありますか。	①ある：4名、②ない：7名
Q7 「薬物」又は「薬物乱用防止」に関するサイトを見たことはありますか。	①ある：3名、②ない：8名
Q8 「薬物乱用」を身近な問題だと思いますか。警察24時など、テレビの中の話だと思いますか。	①身近な問題：8名 ②テレビの中の話：3名
Q9 以下のイラストを見たことはありますか。	
	①ある：7名 ②ない：4名
	①ある：10名 ②ない：1名